

60歳になったら二人で何かをやろうと決めていた依田夫妻は、50歳から10年計画で何を作るかを探していたという。それまでにもガラス額を作って個展を開催したり、バンジーを作ったり、様々な取り組みをしてきたが、どうもピンとこない。そして、1996年の春、万華鏡と運命的な出会いを果たすことになる。

「知り合いに万華鏡作りを提案されて、万華鏡店へ行きました。そして、探していたものはこれだ!と思いました。夫に作れる?と聞いたら、できると言うので、それから万華鏡作りをはじめました」

しかし、万華鏡作りは、生易しいものではなかった。教えてくれる人もいなければ、材料もない。電話帳で、鏡、ガラスを扱う会社に軒ずつ電話をして、なんとか材料を分けてもらった。それから、会社勤めを続けながら、夜中から朝まで万華鏡作りという、土日も正月もない生活を続けた。外観と仕組みは夫の満さん、模様のおブジェクトは妻の百合子さんが担当。二人三脚で作った万華鏡の数は、年間に1000個を超えることもあった。

1997年5月、万華鏡最大の祭典、米国ザ・ブリュースター・カレイドスコープソサエティ・コンベンションに参加。日本らしい作品を作りたいと、竹を素材にして漆を塗り、電動式で音が聞こえる「かぐや姫」という万華鏡を出品して好評を得る。それから8年後「Time 一時-」で、遂にグランプリを獲得。翌年には「宇宙2006-空と宙(そらとそら-)」で2年連続のグランプリを獲得する快挙を成し遂げた。

「今、一番やりたいのは、家族と一緒にひとつの万華鏡を見ながら楽しむ、大きな万華鏡を作ること。それと、子どもたちに万華鏡を見る体験の場を持たせること。初めて見る万華鏡が、うんとキレイであってほしい。それを提供する役割をしたいと思っています」

万華鏡に魅せられた人々

世界を代表する万華鏡作家、
日本一の万華鏡コレクター、
日本初の万華鏡専門店開業者など、
万華鏡と出会ったことで
人生が一変してしまった人々に、
万華鏡の持つ魅力を語ってもらった。



「宇宙2006 空と宙(そらとそら-)」
2006年の米国ブリュースター・ソサエティ・コンベンションでグランプリを受賞した作品。ジョンレノンの「イマジン」がオルゴールで流れ、宇宙から見た世界を万華鏡で見事に表現している。

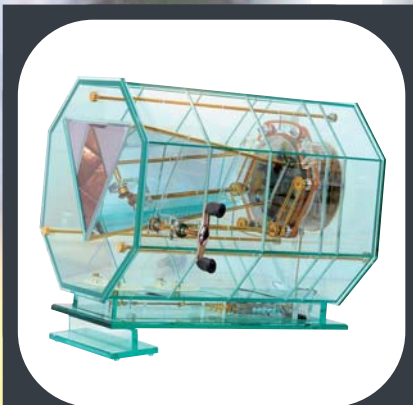


「大人の科学マガジン」のプラネタリウムのようなふくが、この万華鏡の大きなヒントになったとか。2つの顔を持ち、ひとつは赤い光でビッグバンを表現。台座のボタンを押すと、内部のミラーが回転して、光り輝く星が現れる。星の光には、交通事故防止のために道路に埋め込まれるキラキラ輝くガラスビーズを取り入れている。

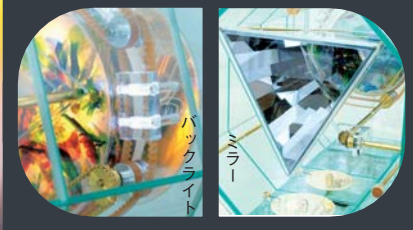
万華鏡作家
依田満・百合子
技術者だった満さんがハード、ガラス工芸が得意な百合子さんがソフトの担当。夫婦で万華鏡作りをはじめたから、噂どころかお互いをますます尊敬しあう素敵な、万華鏡作家夫婦。
http://www.013-opp.so-net.ne.jp/crystal-garden/

夫がハード、
妻がソフトを受け持つ
世界大会二年連続
優勝の夫婦作家

左の写真も下の写真も、印象はかなり違って見えるが、どれも同じ万華鏡が組み込まれた模様。万華鏡に組み込まれた時計の動きに連動して、オブジェクトのバックライトが時間の経過と共に、日の出の青、昼間の白、蜜柑色の日の入り、黒色の夜という、4色に変化し、一日の時刻の移り変わりを表現する。



「Time 一時-」
2005年の米国ブリュースター・ソサエティ・コンベンションにて、初めて依田夫妻にグランプリをもたらした作品。ガラスのフォルムが美しく、幅310mm×奥行465mm×高さ370mmという大きさで存在感は抜群。筒の底には、日本古来の時を刻む和時計と、24時間表示の西洋時計が組み込まれている。





万華鏡作家
角敏郎

1997年に東恵ハンスが主催した「ハンス大賞」にて、ハンス・メインド賞を万華鏡で受賞し脚光を浴びる。アルミニウムや真鍮などの金属を使った、独特なメカニカルな万華鏡が人気。

角さんの個展のお知らせ
「アートの庭」
東京都国分寺市光町1-42-8
電話 042-573-7555
2006年10月3日~17日
<http://www.1.bbweb-arena.com/artno3/>

天体望遠鏡、フラスコ、顕微鏡といった、理科の実験器材を彷彿とさせるデザイン。複雑に絡み合った金属のギアが噛み合せて動きだす。外見をただ見ただけでは、これらを万華鏡だとイメージできる人は少ないという。

「初めて万華鏡を見たのは小学校のとき。おもちゃの万華鏡キットを作った。立派な鏡ではなかったけど宇宙を感じたよ。まだ、白黒テレビの時代、色が動くのが新鮮だった。それから、しばらく万華鏡を見る機会はなかったけど、20年前に知人からシルバー製の万華鏡を見せてもらった。その美しさを見たとき、自分も万華鏡作りをやらなくてはいけないと感じたんだ」

デザイナーとして仕事を続けてきたが、6年前に独立してから万華鏡だけを作るようになった。世界中でも金属を使って万華鏡を作っている人は珍しい。

「家族からは真面目に働いてと言われるし、仲間には、なぜ万華鏡なんか作るんだって聞かれます(苦笑)」

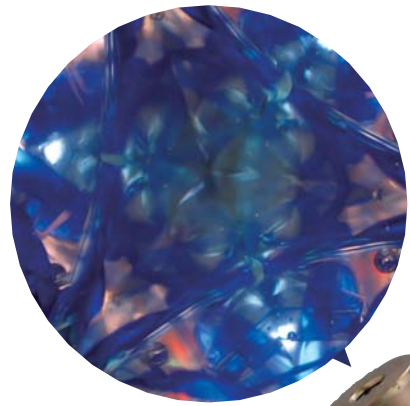
万華鏡を専門に作るようになって、仕事で彫刻を作っていたときに比べて収入が減ったと笑う。それでも、万華鏡に惹かれて作りはじめたのは、万華鏡の持つアートとしての魅力の大きさなのだという。

「万華鏡をのぞくことで、見る人が作品の中に入っていきます。作品と人が一体になる。そして、老若男女を問わずに喜んでくれる。将来は、小さくてもいいから、個人の万華鏡館を作って、万華鏡作りを教えたい」

角さんは、今でも全国各地に出向き、ワークショップを行って、便器やゴミ箱の万華鏡を見せて回っている。

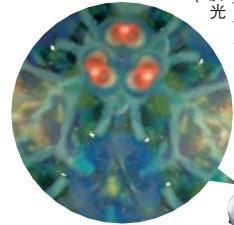
「便器やゴミ箱の万華鏡を通じて、どんなに汚く見えても外見で判断してはいけないと子どもたちに教えたい。その反面、汚いものでも、万華鏡を通すと綺麗に見えてしまう。そういう怖さも感じています」

美しいと汚いは表裏一体。万華鏡というアートを通じて、これからも多くの人にメッセージを伝えてほしい。



MOTHER #A-2

ギアを女性の乳房に見立てた女性型万華鏡。心臓に近い左が赤、右が青の2つのオブジェクトが楽しめる。首部分を持ち上げると腕に見立てた筒が回転して、それぞれのオブジェクトに対して2種類のミラーシステムが楽しめる。



SOLAR SCOPE #7

角さん曰く「ソーラー電池を使った万華鏡は自分が初めて作ったと思う」。入院している母のため、オブジェクトを手で回す手間を省くためにソーラー電池を用いた。



KALEIDO SCOPE 2006 #13

船の位置を調べる六分儀をモチーフにした万華鏡。真鍮のみで作られており、レトロな雰囲気を醸し出す。傾きを変えるとオイル式オブジェクトがゆっくり流れ落ちる。



KALEIDO SCOPE 2006 #H3

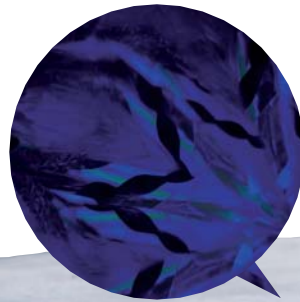
2006年に作られた万華鏡のひとつ。歯車を使ったメカニカルなデザインの顕微鏡型万華鏡が多い中、ひたすらシンプルなフォルムを追求した作品。



PLANET 2003 #3

地球に見立てた真ん中のオブジェクトを見る、地球儀型万華鏡。大きな球体の中にはモーターが取り付けられており、ソーラー電池で地球が回転するしくみ。

「美しい」よりも「カッコイイ」という言葉がよく似合う
メカニカルな作品を生み出す万華鏡作家



DUST BOX #3

外見で、物事を判断してはいけないと子どもたちに教えよう、というテーマで作った作品。サイズ違いのゴミ箱を何個も作っていて、中には本当に汚くしたのもあったとか。



KOIZUMI #1

マルセル・デュシャンの便器を使った有名な作品「泉」のパロディで、総理の名前とつけてつけた名前が「小泉」。お母さんたちが便器をのぞく姿が面白いのだとか。

